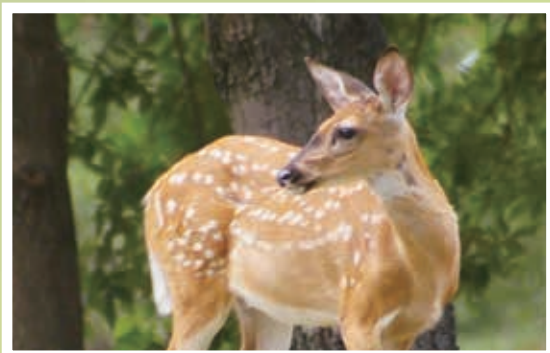


《全被造界と共に生きるための提案》心して、簡素に、持続可能な在り方で生きる

全被造界と共に生きるための工夫は生活の場や環境、文化によっても異なるので、各項目毎に今の自分に出来ることを考え、実践しましょう。



エコ生活の実践

- 水、電気、建物の使用においてエコ意識を高める
- 「必要なこと」と「したいこと」を区別する
- 車の相乗り、公共交通機関の利用、徒歩、自転車の利用を積極的に考える。遠方に出かける代わりに、可能なら情報機器を利用して情報交換や会議をする
- 中古品または耐久素材の製品を買う；使い捨てや過剰包装のもの、ポリ袋、ペットボトルの使用を避ける
- 環境保護に適した洗剤（重曹やお酢やホウ砂製品）、石鹼などを使う
- エコ包装の贈り物を習慣付ける
- 再利用、削減、修理、再生を心がける

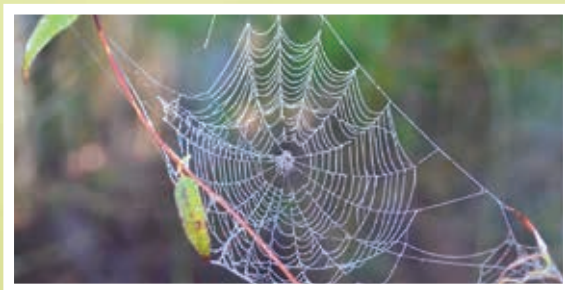
食生活を健康に

- 食品素材はできる限り加工されていない自然のもの、例えば、有機栽培や自宅の菜園で採れたもの、牧草飼育や放し飼いの動物の肉などを用いる
- (大きな修道院では) 食の委員会を作り調理担当の職員にこの価値観を伝える
- 調理すること、食することも心を込め、感謝をもって行う
- 地域の産物を、CSA（地域サービス局）や農家の市、生協を通じて購入する
- 菜園を作り食品保存法を学ぶ

- 可能な限りボトル入の水、人工栽培、遺伝子組み換え、放射線照射食品の使用を避ける
- 可能な限り食物連鎖段階の低い食品を選ぶ
- 肉食を減らし、果物、野菜、穀類など、菜食主義者用の食べ物を増やす
- 運動の習慣をつける

大地の使い方の工夫

- 自宅の庭を自給自足用に活用する—野菜や果樹を植え、有機栽培の菜園を作る
- 大草原、森林、野原など、自然美の景観領域を広げ、自然センターや遊歩道など、自然を楽しむ設備を増やす
- その土地のものを植え、生物の自然の生息環境を守る
- 貧困で土地を持たない人々に農作のための場所と教育の機会を提供する
- 芝生の面積を制限し、無農薬庭園を目指して社会にその価値観を提唱する実践をする
- レインガーデン、湿原保護、再生水用設備等エコ造園を具体化する—



エコ知識を深める

- SSND の修道院の集会で、エコの霊性と持続可能な生き方について話し合い、省察する機会を持つ
- 公共の図書館を利用し、書物や雑誌を読む
- 私たちの文化的で消費的な生活様式が環境に及ぼす影響について考えるエコ読書会、エコ教室、ワークショップに参加する

- 私たち自身の持続可能な土地利用と生活様式によって実践モデルをしめし、教化を目指す
- 地球憲章 (Earth Charter Principles) を読み直し、話し合う
- バードウォッチング・山野散策・草花に話しかけるなど、自然と触れ合う



行動し声を挙げる

- 生活改革運動、廃棄ゼロ運動、食品成分表の表示義務、抗生物質の効力問題など持続可能な努力に関して、地域の活動と協働し、活動を支援し、或いは地域で新たな活動を主導する
- 地方自治体、州や国の議員と会い、環境優先の立法の推進を訴える
- シャローム・全米野生生物協会・シエラクラブ (アメリカの環境保護団体)・地球正義のNPO など、インターネット上の提唱—行動ネットワークに参入する

この土地倫理声明書は 2014 年 6 月 29 日の管区集会で承認された



School Sisters
of Notre Dame
Central Pacific Province

320 East Ripa Avenue
St. Louis, MO 63125-2897

www.ssndcentralpacific.org

このリーフレットは再生紙を使用しております

大地の倫理



ノートルダム教育修道女会
セントラルパシフィック管区

School Sisters
of Notre Dame
Central Pacific Province

はじめに

“大地の倫理”とは人間と大地の関係と同時に、大地に対する人間の責任を表す用語です。

*大地は寛大な神からの尊く聖なる賜物であり、それはただ土地を指すだけではなく、水・土壌・空気・植物・動物にまで及びます。私たち人間を含むすべての被造物は、この地球上で、聖なるいのちの共同体を形づくっているのです。

ノートルダム教育修道女会は、地球共同体に深い関心を持ち、地球の全体性と聖性への敬意を自分たちの中に、また人々の間にも培うことに努めています。従って私たちノートルダム教育修道女会セントラルパシフィック管区メンバーは、以下の原則に従って生きることを決意します。私たちが委ねられている聖なる場にとどのような関わりを持つかを示唆するのもこの原則です。この原則は聖書、ノートルダム教育修道女会の会憲と一般指針（YAS）及び総会指針に根差しています。



ノートルダム修道院のぶどう棚トンネル
(ウィスコンシン州エルムグローブ)

原則 1

地球は聖なる共同体です

“多様性の一致という本会のカリスマを誠実に生きるため、私たちは、持続可能な世界を目指して、より簡素に、責任深く、互いと全被造界と共に生きます。”

（『愛はすべてを与える』 本会第24回総会指針 2017年10月24日承認）

*大地の倫理とは、アルド・レオポルド (Aldo Leopold: アメリカ合衆国の著述家、生態学者、森林管理官、環境保護主義者) による造語。空気・土・水・植物・動物・人間は全て、生態系の中で、大きな共同体を形成している。著書 Sand County Almanac (『野生のうたが聞こえる』講談社 1997年) で、生態系とそこにいる人間との関係を述べるために “大地の倫理” という表現を用いた。



セントメリー・オブ・ザ・パインズ修道院の池
(ミシシッピ州チャタワ)

原則 2

敬虔かつ責任ある姿勢で地球を守ることが、水や土壌、空気や動植物の存続にとって必要不可欠です。

CP管区の各キャンパスの建物や景観、また私たちの住居も、私たちにとって聖なるものです。私たちは、これら地球からの賜物に大きく依存しています。

“個人も、共同体も、責任ある執事として必要に応じられるよう、委ねられた資源を管理する。”

(YAS 一般指針 19)



美しく咲いたグアムの花

原則 3

神に造られたものは多様で相互に依存し合っています。その一部に何かが起これば、全体が影響を受けるので、生態系に配慮した健全な生き方が必要とされるのです。

“個人の生活、共同の生活は、私たちのキリストへの奉獻から生じ、奉獻のあらわれであり、また、それを深めるものでもある。私たちは簡素に生きる。贅沢をさけ、余分のものを持たぬようにし、所有欲と消費主義への傾きに抵抗する。”

(YAS 一般指針 20 と 20c)



善き勤めの聖母の丘修道院に在る赤壁の納屋
(ミネソタ州マンケート)

原則 4

他の共同体と対話し協働すれば、自分たちだけで努力するより、一層の構造的変化が望めます。地域レベルでの協働が最も効果的です。

“人間の持つ可能性を開花させ、人間の尊厳を高めるように働くことにより、私たちは社会構造を建設的に変えていこうとする”

(YAS 一般指針 33a)



リパのサンタマリア修道院からミシシッピ川を臨む
(ミズーリ州セントルイス)

原則 5

私たちは、教育のカリスマを大切にしています。被造界の素晴らしさと神秘に深く心惹かれるので、大地に心を配ります。時のしるしに注意を払って為す私たちの選びによって、自分自身も学び、他の人々にも学びの機会を提供します。

“被造界の叫びへの応答は教育にあり、あらゆるものとの連帯の具体的表現だと、私たちは改めて確信します。

(『連帯への呼びかけ』 本会第23回総会指針 2012年10月24日承認)



日本庭園の静寂